

2014 年度 海外語学研修 @UC Davis 報告書



目次

プログラムの案内-----3

プログラム・コーディネーターより-----5

プログラム・カレンダー-----6

| | |----------| | 参加者による報告 | |----------|

UC Davis での授業----- 6

ホームステイ----- 9

フィールド・トリップ----- 12

全般について----- 14

反省会----- 27

英語科 HP でのプログラムの案内

海外語学研修@UC Davis

海外語学研修@カリフォルニア大学デーヴィス校



大学概要：カリフォルニア大学にある 10 のキャンパスのうちの 1 つ。農学部を中心に発展してきたが、現在では文系・理系ともに多彩な専攻科目を備える州立総合大学となっている。モットーは "Fiat lux"（そこに光あれ）。州都サクラメントの郊外都市、デーヴィスに位置する。

研修先：アメリカ合衆国、カリフォルニア大学 デーヴィス校 附属語学学校

費用： 研修費予定額 約 1600 ドル，ホームステイ費用 約 1000 ドル

旅費・保険別途（奨学金制度あり）

期間：2014 年 8 月 7 日（木）～9 月 7 日（日）32 日間

（研修期間 8 月 8 日（金）～ 9 月 5 日（金））

参加方法：水曜 4 限（夏学期）に開講される「英語 II@UC Davis」もしくは「英語 III@UC Davis」に登録すること。海外語学研修の英語 II, III については、英語 II, III 一般の受講制限の例外になる。

＊ 参加のために課される英語力についての試験はありません。

オリエンテーション 4 月 9 日 教室 405 教室

担当：商学研究科准教授 町田みどり

お問い合わせは eng.dept.hit.univ5@gmail.com までご連絡願います。

プログラム・コーディネーターより

2014年度の海外語学研修は8月7日～9月7日に実施され、参加者は15名であった。昨年度より研修先の大学によって一大学の派遣枠縮小が行われ、昨年度は30名から20名に縮小されたが、今年度さらに15名へと縮小されることになった。派遣枠縮小の理由は、UC Davisの夏季語学研修プログラムは人気があり、希望する大学が多く、なるべく多様な大学に参加してもらうためということであった。来年度以降少なくとも現人数は確保するよう努めたい。一方、今年度は同時期に学内で本プログラムと平行して「夏期海外短期留学試行モニター」プログラムが実施されたこともあって、初回オリエンテーション参加者、実際の参加希望者共に減少した。

昨年度とその他の相違点をあげると、今年度は、一昨年度のハンタ・ウィルス発生以来、大学側より禁止されていた現地での小旅行のオプションのひとつヨセミテ公園ツアーへの参加が許可された。アメリカの大自然を経験できるヨセミテ公園ツアーは、学生の滞在中の小旅行の中でも最も魅力あるもののひとつなので、今年度許可されたことは喜ばしいことである。学生たちの報告からも充分に楽しんだ様子がうかがわれた。

また今年度は、出発前準備学習にも力をいれた。オリエンテーションにおける昨年度参加者による経験談の中で、現地での生活が始まっても、なかなか話せるようにはならず、やっと聞くこと話すことになってきた頃帰国ということになって残念だったという感想が述べられたことに基づいて、今年度は、渡航前にある程度以上の準備学習を行うことにした。本学英語科作成の留学に向けたCALL教材と「スーパー英語」を教材として課し、リスニング強化を行わせた。また、話すことにもなれさせるため、授業において自己紹介、自分の日常、好きな日本の食べ物といったテーマでグループで英語を話す演習を行った。そして、帰国後の反省会では、「ホームステイ」・「学外生活」・「授業」について各グループで英語によるプレゼンテーションを行ってもらうことを課題とした。詳細は「反省会」の項に記したが、結果として、この出発前のグループ会話と帰国後の英語によるプレゼンテーションが、学生の学習成果を計る上で有効であった。出発前の各グループでの英語でのやりとりは、拙いものであったが、帰国後のプレゼンテーションにおける学生たちの英語は、見違えるようであった。出発前とは異なり、皆、自信をもって英語を話す姿は感動的でした。学生の要望もあり、この反省会における「英語による研修報告」は来年度も実施したい。

研修中の8月24日、カリフォルニア州ナパ市で地震が発生したが、国際課の迅速な対応により、学生たちの無事が速やかに確認された。その他にはとくにトラブルなく全員無事帰国したが、帰国後若干のトラブルが確認されたことを報告しておく。学生は研修中、市内のホームステイ宅から大学まで自転車で通学することになっているが、参加者のひとりが、その通学中に交通違反を起こしたということで、罰金支払いが生じた。しかし、その時点では学生には語学力の問題で事態について理解が及ばなかったこともあり、大学側には報告がなく、最終的には11月頃に問題対処の必要が生じることとなった。通学の便宜上、来年度以降も自転車を利用した通学となる可能性は高いので、交通法規の違い、また安全性については出発前に学生により十分な事前指導を行い、こういった問題の再発防止に努めたい。

今年度の海外語学研修実施に際し、国際課の方々、またCIEEの担当者の方々、その他多くの関係者の方々のお力添えを頂いたことに感謝の意を表すと同時に、研修参加者全員が、本研修での経験をいかして、今後ますます英語を磨き続けることを祈るものである。

プログラム・カレンダー

4 月 9 日(水)	第 1 回説明会	プログラム概要の説明
4 月 16 日(水)	前年度参加者によるオリエンテーション	
4 月 23 日(水)	第 2 回説明会	旅行会社によるガイダンス (ビザの説明など) 参加申し込み・各種書類提出・履修登録
4 月 30 日(水)	旅行会社によるオリエンテーション	書類提出+ Q&A
5 月 7 日(水)	旅行会社によるオリエンテーション	ビザ説明会(2 回目)
7 月 8 日(火)	危機管理オリエンテーション	国際課主催
7 月 16 日(水)	危機管理オリエンテーション 1	旅行会社主催
7 月 23 日(水)	危機管理オリエンテーション 2	旅行会社主催
8 月 7 日(木)	成田空港集合	出発。サンフランシスコ到着後大学へ移動。各自ホストファミリーへ。
9 月 6 日(土)	サンフランシスコ空港集合	出発。翌日成田空港到着後、解散
9 月 26 日(水)	反省会	

UC Davis での授業

原田一平

私にとって Davis での毎日はとても充実していた。こう断言することができるのには様々な要因があるが、特に Davis でのクラスやクラスメートが充実していたからではないのかと感じている。このレポートでは私がどのようなクラスメートとどのような勉強したのかについて書こうと思う。

まず初めにクラスメートについてであるが、他のクラスと比較して最も多国籍だったのではないかなと思う。日本、中国、台湾、ベトナム、マダガスカル、パキスタンの6カ国で構成されていた。中にはフルブライト留学生もおり、非常に優秀であったので刺激を受けた。またクラスメート間の仲が非常によく、クラスで昼ご飯や夜ご飯に行き、卒業式ではみんなで歌を披露した。卒業式で号泣していたクラスメートを見て、もうこのメンバーで一緒にいるのは一生ないかもしれない考えると私も悲しく思った。そんな彼らと学んだのは通常授業の3コマであり、2限の US Society and Culture、3限の Intercultural Research Project、そして4限の Listening and Pronunciation である。授業内容としてはアメリカの文化を学びながら英語力も伸ばすというものである。宿題は Fox のドラマ1話の要約、Davis の生徒にインタビュー、英語でプレゼンをするなど日本ではあまり経験したことないものが多かった。また、授業では必ず発言しなければならないのも日本とは大きく異なっていたように思った。

次に1限の選択授業についてである。私は当初 TOIEC 対策の授業を選択したのだが、履修者が少なすぎて開講されず第2希望である Business Communication Skills を履修することになった。授業では主にビジネスシーンで用いる単語、状況に合わせた Email の書き方、そしてロールプレイングを学習した。通常授業よりも内容が難しく、毎日 Email が宿題で出されたので今勉強して意味あるのだろうか疑問に思うときもあった。しかし、起業家のためのビジネスパーティーに参加する機会があったのだが、実際に起業家に自己紹介できたのはこの授業のおかげであると思う。選択授業では様々な選択肢があったが TOIEC の勉強は日本でもできることを考えると開講されなくてよかったと思う。

以上のような時間割で授業があつという間に終わってしまった。1か月という短期の研修であったが想像以上に大きなものを得ることができたと実感している。特に英語で授業を受けることに関してそれほど抵抗がなくなったように思える。今後はこの英語力を維持しつつ、さらに上げていきたいと思っている。

田村勝裕

私はグループプレゼンテーションにおいて、授業についての報告、特に Expressions & Idioms を担当致しました。ここではプレゼンテーションで紹介した内容を若干の追加を含めながら説明致します。

この授業の目標は、はアメリカ人(特にカリフォルニアに住む人々)が日常よく使うスラングについて学び、かつ実際にそれらを使ってみることで、そのスラングに慣れ親しむというものです。授業のスタイルとしては、講師が配布するプリントを中心に学習するものと、その週学んだスラングを用いて寸劇をグループごとに発表するというもの、また週に1回の小テストというものでした。まずプリントによる授業に関しては、プリントには毎回短い会話文が記載されており、その中にその週学ぶスラングが含まれています。生徒は2人で会話文を音読し、スラングの意味を推測します。次に講師が実際の意味を解説し、映像(youtube)を用いて実際にアメリカ人がどのような状況で使っているかを紹介します。寸劇に関しては、毎週木曜日に3~4人ごとのグループでその週学んだスラングを用いて1,2分程度のものを発表しました。時間的には短時間でしたが、使うスラングが会話状況に違和感なく符合するようセリフを考えるのが難しく、この過程を経ることでよりスラングの意味や使い方を実感することが出来ました。また毎週金曜日には、宿題が課され、ノートにスラングを用いた10個の文章を作り、提出するというものでした。また小テストもあり会話文にブ

ランクが 10 個程度あり、そこに適したスラングを埋める、というものです。

この授業を通して学んだ事は、スラングは私が思っている以上に日常的によく使われる生の英語の一つ、ということです。また場所や年齢層によって使われるスラングが異なるということです。例えば、California で、とても凄いという意味のスラングに sick というもおのがあるが(例:Michael Jordan is sick!), New York ではこれに相当するものとして、ill を用いる(例:Michael Jordan is ill!)といった違いがあることです。またこの授業を通し、私はよりスラングに興味を持つようになり、ホストファミリーに今若者が良く使っているスラングなどを教えてもらったりしました。

Naoya Horita

The class I want to introduce to you is Business Conversation skills class. This is a kind of elective classes. We could choose the first class and I chose it. The teacher is Matthew. He is really friendly and clever. In this class, we learned some business words and idioms and practiced how to writing an e-mail by using them. And also, we often stood in front of the students in this class and did brief introduction of our selves which is called “the elevator pitch”. Moreover, we went to Memorial Union, which includes a bookstore and cafeteria, and practiced to negotiate to other people by some techniques we learned in this class. Besides, Matthew took some of us to a party called “networking”. At this party, we met about 30 business people who own or try to own their company, and we practiced the elevator pitch. However, the venue was so noisy and everyone spoke so rapidly that I had much trouble with listening and speaking. This class was really nice and the best of 4 classes.

Akiho Mita

In this program, I had four classes; Intercultural Research Project, Listening & Pronunciation, US society & Culture, and Everyday Expression & Idiom. The most impressive class of them is Intercultural Research Project.

In this class, we had to interview 10 Americans about US culture we were interested in and to make a presentation. I decided to research about American attitude toward working, because I am interested in working problems in Japan and I think that learning about the difference of attitudes toward working between Japanese and American will be a clue to improve Japanese working situation. I prepared a questionnaire and I went to a cafeteria, a library, a book store, some offices on campus, farmer’s market, and a park. At first, I was very nervous because I had to speak to a completely stranger and I did not have enough confidence to speak and listen to English. However, all of them kindly accepted my request. In Japan, on the contrary, many people will refuse such a request. It was a huge difference.

The result of the interview was also interesting. They said that working should be fun and it is up to individual whether we can enjoy our work or not. They also said that if we are not satisfied with our job, we should make an effort to improve the situation. To my surprise, more than half of them achieved their ideal work-life balance. These attitudes will be good suggestion for many Japanese people because many Japanese people think that working is hard and sever, not fun. Moreover, many Japanese people tend to tolerant if they have difficulty in their work. I think that we need to rethink these attitudes toward working and try to improve the situation.

Through the interview, I realized the inadequacy of my English skill. I often felt irritated, because I wanted to know what American people think, but I did not know what I should say and could not understand what they said sufficiently. Furthermore, it was an insufficient research at all; I interviewed only 10 people in Davis. However, these insufficiency motivated me to study English much harder and to learn more about working in the US. This class gave me a chance to get a new worldview.

ホームステイ

矢田麻結

わたしのホストファミリーは、父 Carlos 母 Yin と、息子 Benjamin 娘 Amalia の 4 人家族でした。他に犬の Duke に猫の Finn と Fredy がいました。

ホストファミリーは、わたしの滞在期間にちょうど引越しをしている最中で、ステイの半分以上は別々の家で暮らしていました。ですから、他の人に比べるとホストファミリーと関わる機会はかなり少なかったのではないかと思います。その点で、英語を話す機会が他の人より少なかったのは残念でした。

しかし、ホストマザーはとてもいい人で、宿題を手伝ってくれたり、一緒に映画を見たりゲームをしたり、英語やそれ以外の沢山のことを教えてくれたりしました。彼女は仏教の先生で、寺院に連れていってもらったこともありました。また、わたしは滞在中にはたちの誕生日を迎えたのですが、その際も 0 時ぴったりにルームメイトと一緒に部屋に来て手作りのケーキを振る舞ってくれました。忘れられない誕生日になりました。

はじめてのホームステイでしたが、自分でやったことといえば朝食昼食の調理のみで、掃除洗濯はほぼホストマザーに任せっきりでした。ちなみに、ホストマザーはミャンマーの人だったので、夕食にはアジア系の料理がならぶことが多かったです。味付けも薄味で日本のものに近く、野菜や果物が足りないと感じることはありませんでした。

ルームメイトは日本人が 3 人、台湾人が 1 人でした。皆とはすぐに打ち解けることができ、よき友達となれたように思います。英語のレベルは様々でしたが、わからないところは教えあい、互いに補いあいながら 1 か月を過ごし切ることができました。Davis でのステイを実りあるものに出来たのは、半分以上彼女たちのお陰だと思っています。

Ruka Kushibiki

I would like to describe about my homestay. There are five people in my host family. The kids are much younger than me, so I enjoyed playing sports and video games with them. They often watched anime, but they watched American anime not Japanese anime. I was surprised because I thought that most of American children know Japanese anime. However, the kids didn't know even famous Japanese anime.

I didn't have difficulty communicating with my host family because my host family is very kind and has admitted over thirty exchange students and they knew that how to deal with Japanese students.

Good point of my host family was that they took me to many places such as Yosemite, Los Angeles, Lake Tahoe, and so on. They guided around many places, so I could enjoy traveling and deepen my knowledge about American culture. Bad point of my host family was that my host mother didn't cook at all. Mostly, she ordered fast food such as pizza, hamburgers and so on. I couldn't stand the diet, so I cooked by myself and served curry for my host family. One thing that I was surprised at was that they didn't watch TV program or read newspapers.

On the whole, my homestay was good. Before this homestay, I had experienced homestay twice. And this homestay was the best one. I could improve my English skills and deepen my knowledge about American culture through this homestay.

Ippei Harada

It was the first time for me to do home stay. Before going to Davis, I felt nervous because I did not know American culture. In my home, including me, there were a host mother and five exchange students.

All of exchange students were Japanese. At first, I doubted I could speak English in my house. However, we spoke English as possible as we could. In addition, my host mother, Peggy, is used to living with exchange students, so she did anything she could to make us fun. For example, she took a walk with us after dinner, and played a board game every day. On one exchange student's birthday, we went to a Japanese restaurant to celebrate his birthday. It was an unforgettable day in my life. I was fortunate to do home stay in her house. After returning to Japan, I keep touch with my host mother by email. Someday, I will go to Davis to see her.

I learn a lot of things by doing home stay. As many people think so, I experienced a culture shock. It was that my housemate was told not to take a shower for a long time because of a drought. Actually, during my staying, it did not rain at all. Especially those who have never done home stay should do home stay.

Satoru Magario

I introduce my host family. My host family is only host mother. And there is one housemate. Host mother is Pakistani and working at wine company as a researcher. She has her own small farm and grows various kinds of vegetables, such as onions, tomatoes, potatoes and green peppers. So we can eat a lot of fresh vegetable at dinner. Also, her hobby is cooking so we often make a dinner with my host mother. Next, my host mother told us to watch movies on TV as studying English. It's because, in the house, we can watch movies on TV freely. So we watched movies after dinner. Those movies are difficult at first because there are not subtitles, but later I can get most part of them. So I feel my listening comprehension improving. And she brought us many places, such as Vacaville outlet, Costco, Sushi restaurant. When we went to Sushi restaurant, she suddenly said she couldn't eat raw fish. So she ate only Chicken teriyaki and rice. Then, we taught her Inari sushi and she liked it. She knew various recipes of Japanese food, such as Okonomiyaki, Udon, so she said, next time, she challenge make Inari sushi.

Finally, my homestay is comfortable and I want to stay here next time. I think I can know American culture deeply for a one month homestay.

Yui Kimiya

My host family was so kind. They did many things for me. They welcomed me every day when I got back to home. I was very depressed and tired when I got home from school, but my host family let me leave alone at first until the dinner would be ready. It was very helpful to me that I could go to bed and sleep a little because I was too tired to talk with someone. But at dinner, my host family completely changed and talked about things in America, or conversely, they asked us about Japanese culture. For example, we talked about difference in wedding ceremony, transportation, fast food between America and Japan, and about American musician, TV programs, famous SNS and popular sports too. It was that time that I first knew that baseball is not so popular in America, especially among young people. Furthermore, we were asked about what we are doing in Japan, so we talked about our club activities or what we study in Japan. It was very nice place to practice talking English and also good opportunity to learn about real American culture. The dinner time was really beneficial time for me in many points. At last, they held a farewell party for me when I went back to Japan. My host mother asked my favorite menu and made it. Also, she made delicious cake for me. The day was called "International Yui Day" between us. And the host family and other students wrote messages for me in a small notebook and gave it to me. It was the happiest thing for me. From those precious experiments, they taught me many important things about living with host family.

First, I needed to have open and honest communication with host family. For example, if I did not need dinner, I had to tell it clearly and as soon as possible. Or, if I needed something, I could say it frankly. If I were to get back home late, I could ask my host father to pick me up by his car. He did not let me go back home at late at night by bike because it is dark and dangerous. I thought he was worrying too much, but it was like I was treated as a real daughter.

Second, I had to keep the rules of the house. For example, I had to get back by curfew. And the time to do the laundry is also limited. We have many family members including we students and if you do it late at night, it would wake someone up. Also, the length of time to take a shower was restricted within 10 minutes because of the lack of water there. I had to think about other family members.

Though these rules seemed to be a little bit strict, but from these rules, I could feel like I was really

welcomed as the family member of the host family. I was treated as family member in that family, and I am so proud of it. I can never forget this valuable experience, so I want to keep in touch from now on. I was very lucky to have such a nice host family.



Tatsuru kori

I think host family is very important in studying abroad for three reasons.

First, host family's home is the best place to learn the practical English and to know the American cultures. In my host family, Nishikawa family, this is really true. My host family, especially host mother, Jeannie, and host sister, Victoria, are very talkative. So I can enjoy talking with them and can learn a lot of practical English expressions, for example "are you serious?" In addition, my host father is very active, so he took me to various places, such as Big tree state park, huge shopping mall in Sacramento. I can meet many Americans and learn American culture from them.

Second, host family's home is the most comfortable and reliable place. At first, I felt anxiety about the life in America where people have different life style and speak different language. But my host family are all so kind and thoughtful that I can gradually feel secure.

Third, it was good experience to live in the other's home. I cannot realize the value of family of Japan until I left them.

For these reasons, I think my home stay in Davis was very meaningful. I really appreciate nice life with Nishikawa family.



(camping with my host family)

フィールド・トリップ

岩本 晃騎

ヨセミテ国立公園とはカリフォルニア州東側に沿ったシエラ・ネバダ山脈の高い山々に囲まれた高い場所にあり、1984年ユネスコ世界遺産にも登録された国立公園である。ハンター・ウイルスの危険を知らせるメールも大学より届いたが、雄大な自然をどうしても体感したかった為参加した。

(ちなみに一橋生15人中14人が参加)昨年度の学生が行けなかっただけに幸せである。

僕ら一橋生は大学のツアーでなく、ある学生のホストファザーが行っているツアーに参加した。日帰りであるためお手頃な価格で行け、なおかつ時間も十分であった。また余談であるが、車の中で人狼をしたりこのツアーを通してますます友情が深まったのではと感じた。

さて、僕たちは有名なハッピー・アイルズというコースを選択した。パンフレットに「難易度：容易」と書いてあったが、僕にとってはただの山登りであった。観光気分で気楽に行ったこともあり、かなり苦しかった。おそらく40分から50分程度歩いた。ただ途中、きれいな川や滝があり景色がきれいで退屈ではなかった。(写真1、2参照)最終ポイントまで辿り着き、大自然を眺望した時(写真3、4参照)、久しぶりに達成感が得られた。やっぱり何か一つのことを真剣に取り組むって気持ち良い。



1…コース最初の方にある川 2…途中の滝、写真下方に虹も見える
3…頂上でみんなジャンプ！ 4…頂上の景色

野坂康裕

私は現地担当者の主催するフィールドトリップには1つも参加しなかった。参加申し込みの締め切りが急であり、向こうでの生活に慣れていないうちに予定を埋めてしまうことが不安だったためである。正直に言うと、参加の機会を逃して後悔がなかった訳ではない。しかし、研修全体を終えて振り返ってみると、不参加というのも1つの選択肢であったと思う。理由は2つある。

1つ目の理由は、フィールドトリップに参加しなくても、ホストファミリーが個人的に旅行に連れて行ってくれたためである。私は週末にアウトレットやタホ湖、サンフランシスコに連れて行ってもらえた。もちろん無料である上に、ファミリーと接する機会も自然に増える。また、フィール

ドトリップと異なり、大学の課題や自分の体調との兼ね合いで延期することもできて、勝手がよかった。有意義な時間が過ごせたので、この点は特にファミリーに感謝したい。ただし、中には放任主義で旅行などは全く企画しないファミリーもいると聞いたので、その点は注意が必要である。

2つ目の理由は、週末のフィールドトリップは大学の課題をこなす時間と重なることが多いためである。同じクラスの友人に最後の週末の三連休にロサンゼルスフィールドトリップに参加している人がいた。最終週は、多くの授業でプレゼンや最終課題が課されるので、週末はその準備に追われる。上述の友人は3日間をフィールドトリップに費やしてしまい、本当に大変そうだった。週末、特に最終週は学校の課題との兼ね合いも考えて、余裕を持った計画を立てる必要があると感じた。

以上2つの理由から、自分はフィールドトリップに参加しないということも、意味のあることだと思う。ただし、これはあくまで1度も参加しなかった人間の意見である。他の大学の人と触れ合う機会が増えるほか、ファミリーが連れていけないような遠出ができるなど、参加という選択にも当然メリットは多いだろう。今後、研修を受ける人には、ぜひこのレポートに加えて、フィールドトリップに参加した人のレポートも読んでもらいたい。読み比べたもらったうえで、少しでも現地での過ごし方の参考になれば幸いである。

Takaki Horie

The Davis Farmers Market

First weekend of our stay, I went to the Davis Farmers Market as a field trip. The Davis Farmers Market is held Wednesday evening and Saturday morning at Central Park which is located in downtown. In this market, we can buy organic produce, baked goods, and many handmade products. We can listen to the band performance on Wednesday. All vegetables and fruits which are sold in the market are made in Davis. That's why all of them are very fresh. Moreover we can eat food such as hotdog with lemonade. I was surprised there were many things in the market and all of the foods were delicious when I visited the market for the first time. After this field trip I went to the Davis Farmers Market every week after the classes with my friends because Central Park is very close to the UC Davis and easy to go by bike. We spent good time with smoothie in one hand. I went to many famous places, for example San Francisco, Yosemite, and Los Angeles. All of them were great places to visit and we spent fun time. However, now I feel ordinary time such as the one I had in the Davis Farmers Market is also very precious.

全体

木宮唯

UC Davis での一か月

私がこの UC Davis の研修に参加しようと思った理由は、英語の勉強という側面もちろんあるが、海外で暮らすというのはどのようなことなのかを体験してみたかったからだ。前から漠然と留学に興味を持っていたが、まだ親元を離れて生活をしたことすらない私がいきなり海外で、一人で生活できるのかという不安があり、ある程度生活のリズムが確立されていそうで、それと同時に異なる国の文化を実際に体感してみたいという思いもあったので、ホームステイができるデービスを選んだ。その結果として、この研修の目的としていた海外での生活を体感、ということは達成できた。実際に現地の人がどのような生活をしているか、何を食べているか、家の決まりは何か、休日は何をしているかなどを、実際にホームステイしてつかめたことは大きな収穫だった。こればかりは実際に一緒に生活していないと分からなかったもので、本当に良かった。それだけでなく、ホームステイでよかったと思う点は沢山ある。例えば、私は現地の大学の授業で思うように英語を話すことができず、学校が始まってから一週間はずっととても落ち込んで家に帰っていた。そのような私にホストファミリーは優しく接してくれ、学校での緊張感が溢れていた話題とは違う、他愛のない話やジョーク、日本でのことについて聞いてくれたり、逆にアメリカでの文化を紹介してくれたりしてくれ、とても気分が軽くなった。学校とホームステイ、同じ英語を話しているのになぜこんなにも気持ちが変わるのだろうと不思議になった。また、ホームステイ先には日本人が私以外に三人いたが、どの子ども、家の中ではたとえホストファミリーがいない時でもずっと英語で話していた。今回の研修では、日本人がたくさんおり、その人たちと英語で話す時も、例えばある英単語が出てこず、英語で説明を試みようとするすると他の人だと全く分かってもらえなかったが、日本人とだとすんなりその単語を言い当ててくれることが多くあった。おそらくその単語や言いたいことを説明しようとする思考回路が一緒なのだからだろうと思うが、興味深いと感じた。ホームステイ先の日本人は、年齢もプログラムも異なっていたが、不思議と仲良くなり、ホストファザーが「みんなうちの娘だ！」と冗談半分で言っていたが、私にとって姉妹みたいな感じがしており、とても居心地が良かった。このように、たとえ限られた時間でも家族のように打ち解けて過ごせる人たちがいて心のよりどころであった。とてもホームステイ先に恵まれていた。

大学での授業もとても印象に残っている。最初は、全くクラスでも言いたいことが言えずに、初めの一週間はずっと落ち込んでいた。クラスで意見を言い合い、ペアを作ってディスカッションをするのだが、まずはその与えられたテーマについて考えなくてはならず、さらにそれを英語に直さなくてはならないという二重の行程がとても時間がかかった。例えば、「ステレオタイプの定義は？」というテーマが与えられ、私がそもそもそのテーマについて考えている間に、すでにもう皆は意見を言っており、言いたいことがまとまったとなると、次の話題にもう移っている。しばらくはこの繰り返しで、発言もできない、言いたいことを発表できないなどのストレスと自己嫌悪が溜まっていった。しかし、二週目に入ったところに、他の国の人とペアを組んでディスカッションをしているときに、楽しいと思う自分がいた。辛抱強く私の言葉を待ってくれ、意を汲み取ってくれ、互いに意見を言い合い、異なる点や同じ点を発見できるのが興味深くて、しっかりと一方通行でないコミュニケーションができていると感じた。その人に「日本の女の子は化粧が濃すぎる。あれはまるで歌舞伎みたいだ。」と言われた時は、面白かったし、日本のことを知っていてくれているのだと思うてうれしかった。その時に初めて教室で声を上げて笑った。そのように、ペアワークは外国の人と組んだ方が楽しかった。教室での発言に関しては自分の言いたいことを言うときに使いそうな自分専用の単語帳をつくり、用意しておくことにしたが、やはり教室内で発言するのは難しかった。もっと渡米前に準備もできたと思い、今後の課題だと思う。渡米前は主に生活面での英語のやり取りに不安を感じており、ほとんどそれに重きを置いて準備していたが、意外とそちらは何とかなるものだと思う。もっとクラスでの振る舞いについても準備はできたかなと悔しく思う。また、週末はフィールドトリップでサンフランシスコやヨセミテ国立公園に行った。とても面白かったし、日本との様々な違いをととても面白く感じた。一週間を通じて宿題が毎日、一日4コマ授業という大変な平日の良い気分転換にもなった。

このように、本当に学校でもホームステイ先でも行く先々でもとても濃密な時間を過ごせたと思う。

必ずしも毎分毎秒楽しかったといえることはなく、本当にどうしようもなく自己嫌悪に陥ったときもたくさんあったが、その時間を含めて私はこの一か月で、英語だけでなく成長できた。ただ、今回の研修は、自分でそのようなものを選んだこともあるが、どこでもいろんなものに守られていた。この初めての経験を生かして今度はいろんなこと、例えばビザの取得から始まり、暮らしのことをもう少し一人でやってみたい。自分の今後について考えていきたい。

櫛引 瑠夏

1.

振り返ってみると、Davis で過ごした夏休みが今までの僕の人生の中で一番充実した夏休みだったのではないと思う。そんな充実した Davis での生活について述べていくとする。

まず第一にホームステイに関して述べていくとする。正直に言うと、Davis に行く前は、知らない人の家で一ヶ月も過ごすと思うと憂鬱だった。しかし、僕のホストファミリーは今まで留学生を何十人も受け入れてきた経験があったせいか親切でステイ先での生活を楽しむことができた。毎週末にホストファミリーが LA やヨセミテなどに連れて行ってくれたのは良い点だったと思う。しかし、ホストマザーが料理をせず、ピザの宅配やら冷凍食品などで夕飯を済まされることがほとんどだったのが不満であった。コミュニケーションの面で困ったことは特になかったように思う

次に授業について。Davis に着いた次の日にクラス分けテストを行い、その成績に基づいてクラスが振り分けられた。僕の所属していたクラスは一番上のクラスで、中国、コロンビア、アフガニスタン、イラクなど多様な人種構成であり、ほとんどの人が英語を難なく話せているように感じた。僕は英語をあまり話せる方ではないが、授業についていけないと感じることは一度もなかった。授業ではアカデミックなことは扱わず、主に発音やアメリカの文化について英語で学んだ。上から五つ目ぐらいのクラスまでは Elective Class といって、一つ好きな授業をとることができ、僕は日常会話のクラスを選択したのだが、レベルが低く、一橋生には物足りないように感じのたで来年度の参加者にはこの授業を選択しないことを強く勧める。

最後に、Davis での生活全般について。放課後の時間が僕にとっては一番楽しかったと思う。UC Davis 内に大きなジムがあり、そこで卓球、バスケ、バドミントン、スカッシュ、バレーボールなどのスポーツをした。また、ボウリング場やビリヤードをする場所も校内にあり、放課後はそのような場所やダウンタウンに行くなどして遊んでいた。一橋の生徒 12 人ぐらいでフランスコに自分たちだけで行ってみたのもとても良い経験になった。しかし、反省点もある。それは、授業時間外やホストファミリーがいない時のほとんどは日本語で会話していたことだ。この時期は日本の様々な大学の生徒がこの研修に参加するため、いたるところに日本人がいる。だから、多少は仕方ないのかもしれないが、英語で会話をする努力を怠ったことを後悔している。

桑折樹

私がこの UC Davis での研修を志望したのは主に 3 つ理由がある。

1 つ目は英語力、特にリスニングとスピーキング能力をつけるためである。3 年生になり就活が始まるに関連して TOEIC に向けた良い練習にもなると考えた。

2 つ目は日本文化をアメリカに伝えるためである。特に自分が得意としている「囲碁」を教えようと考えた。

最後に 3 つ目は、自分の殻を破るためである。今まで生活面で大きな苦勞をせず温室育ちで来た自分にとって、全く新しい環境や異なる言語の土地に行きタフな経験をする必要があると考えたからである。よく言われる「視野を広げるため」ともいえる。

この研修を通して 3 つの目標は概ね達成できた。

英語力に関しては、リスニングとスピーキングに関しては成長を実感することができた。UCD での pronunciation や academic research の授業を通して実際の英語の発音方法について新たな発見があ

ったり（tをdと発音するケースなど）、インタビューへの返答を必死に聞き取ろうとしたりすることで力がついたと思う。加えて、授業時間以外でいかに積極的に英語の関わろうとするかが大事であった。このプログラムは日本人が8割ほど占めているため、自ら外国人と交流しにいかないと日本人との馴れ合いで終わってしまう。昼休みや放課後にベトナム人や台湾人の生徒と遊んだりしたのも英語力上昇につながったと思う。また、ホストファミリーがとても人が良く、おしゃべりであったため、ホストファミリーと話す機会が多かったことも幸いであった。

日本文化を伝えることの関しては満足にはできなかった。しかし、ホストファミリーが韓国系のバックグラウンドを持っていたため（囲碁は韓国でも盛ん）、興味を持ってくれて、長男にルールを教えられたことはよかった。インターネットなどを使って続けてほしい。

最後に自分の殻を破るということに関しては、まだ実感はわいていないが新しい環境に適應する（言語や生活習慣の違いを受け入れる）力や、自分で考えて行動する力がついたと点で収穫があった。

総じて、UCDでの授業やフィールドトリップ、ホームステイ全てで貴重な経験をすることができた。この経験を今後に生かせるようにしていきたい。

中村 拓人

私にとって今回の短期留学は人生初のホームステイ体験であった。食事、生活様式の相違、英語力の不足そして人間関係といった様々な事柄に不安を抱きつつ、日本を立つこととなった。しかし結論から述べると、そういった不安を取りさるものは「自分の意思をつたない英語でも伝える勇氣」と「自分と違う文化を楽しむ余裕」にあるということ、このホームステイを通して体感できた。例えば「食べたい」「食べたくない」の意思をきっちりと相手に伝える。しかし「食わず嫌い」ということはせず、とにかく挑戦してみて、挑戦したという経験を楽しむ。たまたまホストファミリーがフランクでアクティブな方であったから成功したのかもしれないが、これがホームステイを楽しむコツであると思う。

またデービス校では、発音、語彙、調査、文化といった4つの授業をひと月の間に受講することになった。その中でも、調査のプログラムがとても有益な経験を私に与えてくれたと思う。このプログラムの中で、私は国民皆保険が存在しないことを人々がどのように考えているのかを知りたかったため、アメリカのヘルスケアシステムについて調査することを選択した。デービス在住の方に「現状の医療制度に満足しているか?」「医療費が高すぎると思うか?」「政府は弱者に対しての保護を拡充すべきと思うか?」といった質問を行った。その結果「他の国とは比較したことがないため、高いかどうかわからない。」「アメリカは自由を愛する人々の国であり、今より弱者を含めた人々の生活に政府が介入すべきでない。」「現状の私的な保険は手続きが面倒だ。」といった、机上の学習では触れることの難しい人々のリアルな声を聴くことができたことが、自分にとってとても有益な経験になったと感じる。

日本に帰国した今ももっとこうするべきだったと後悔することもあるが、後悔先にたたず、という言葉の通りである。次回の経験に活かせるように、その反省を日々噛みしめていきたい。特に英語力という点に関していえば、まだまだ自分の場合日本でやるべきことがたくさんあるということを痛感させられた。

このように、今回の短期留学は自分の中で大きな糧となったことを確信している。この経験と反省を、この先活かせるよう日々精進していきたい。

堀田直也

2014年度の夏休みの前半1か月を投資して経験した短期留学を振り返る。正直な話、この短期留学の動機はそんなに立派なものではなかったと思う。結論から言うと、とりあえず英語をしゃべらざるを得ない環境に身を置いてみよう、というだけだった。将来を見据えて、といった大きなビジ

ョンがないまま留学の準備をして実際に行ったわけだが、それでもかなり収穫はあった。

行く前や着いた最初の週はアメリカのご飯はきつと栄養に偏りがあって…そもそもきちんと料理してくれるのか…治安は良いのだろうか…英語でちゃんとコミュニケーションが成立するかな…等の不安が多かったが、実際に行ってみると、私のホストファミリーはきちんと料理もしてくれるし、野菜も出されたし、デービスはとても治安が良かったし、英語もなんとか意思疎通くらいはできて当初不安に思っていたほど環境に対して不快に思わなかった。その点ではかなり恵まれていたと思う。

クラス分けテストがあって、それから授業が始まったが私のクラスにはなんと日本人以外の留学生が2人しかいなかった。しかもその両方ともすでに成人しており、フルブライトを利用してアメリカに来ており、英語はペラペラ（もちろん訛りはあってきれいではないなと感じることはあったが）というなんともかけ離れた存在であった。選択授業があったので違うクラスの人とも交流が持てたのだが、総じて感じたことは外国の人は日本人よりも実用的な英語を身に付けているということだ（もちろん個人差はあれど）。日本人はたしかに文法やリーディングでは学力を発揮するが正直言って殊しゃべる聞くに関してはかなりレベルの平均が下がると思う。Listening and Pronunciation 授業のクラスに日本の中学校で先生をしている人たちがいたのだが、発音やスピーキングのレベルはやはり日本人の子供に教えるにはまだまだなのかなと感じてしまった（もちろん自分も似たようなものだが）。そこで思ったのは、ありていのことだが、もっと実践的な英語を学ぶ必要があると感じた。中学から大学の授業までをもっとリスニングやスピーキングにシフトしたほうが良いと思ったのだ。そうでないと、外国の学生と同じ時間だけ英語に割いてもあまり意味がないと思う。

新しい知人たちと出会って感じたのは、積極性の大切さ、である。特にこのようなイベントのときには新しくできた友人となるべく話すことは大切だと思った。このようなものに参加している人たちはみな少なからず新しい関係づくりを望んでいるはずだから自然と打ち解けやすいからだ。その機会を無駄にするのはもったいない（私はわりと保守的な人間だからこの機会を人脈作りに100%活かせたかといわれるとそうでもないのだが）。特に外国人は話しているだけでも考え方の違いがありありと伝わってくる。それが少しストレスにもなるが、それでも大きな刺激になるからちよつとでも頑張ってそれまで知らなかった人と話すのも良いと思う。

アクティビティに関して、平日の放課後はあまり時間がなかったし、サークルの練習をアメリカでもしていないと落ち着けなかったので平日はけっこうジム（ARC という建物）にいた。そこはとても設備が良く多くの人がトレーニングをしていた。デービス市内はわりと健康意識や教育に対して前向きな人が多いらしい（ホストマザーが言っていた）。週末は毎週様々なところでかけた。アメフトのNFLやSF、Lake TahoeにLA、Yosemite、本当に遊びつくした。アメリカ人はBBQが本当に好きなんだと思うくらいにことあるごとにBBQセットを取りだしては野菜やらハンバーガーやらホットドッグやらを焼いていた。メジャーリーグとサクラメントに行けなかったのは残念だったが、それでも何回分もの旅行を楽しめた。

理想と現実が大きく違ったのは、向こうでは日本人とも英語でしゃべろうと思っていたのが、自然とそういう風にはならなかったし、できなかった。自分が思っていた以上に日本人と日本語をしゃべっているときは落ち着いた。コミュニケーションが思うようにできないというのは想像以上にストレスなのだと認識した。英語でコミュニケーションするのにかなりエネルギーを使ったし、それでも流暢とはお世辞にも言えなかったからホストファミリーともそんなに多くの会話はできなかった（宿題が思いのほか多かったのと、ホストファミリーの就寝時間が早かったというのものもあるのだが）。授業自体は重要なことは聞き取れたしそれなりに発信もできたから、心残りというか悔しかったのはこんなところだろう。

卒業式の3日前に、突然ストリートダンスのパフォーマンスをすることになりかなり慌たしかったが、それでも人生においてそんな何回もある経験ではなかったから楽しかった（ダンスつながりで新しい知人も増えた）。それと同時にUC Davisのスタッフや先生たち、留学生たちのあたたかさというか、頑張っている人を迎え入れる気持ちを強く感じてうれしかったし、こういう場において何かパフォーマンスをできるというのはけっこう強みになるのではないかと思った。

最後に、この留学を通して思ったことを述べる。まず、英語をビジネスとして使う、もしくは仕事で英語圏に行くというのは正直厳しいかなと思った。1か月でもそれなりにスキルの向上は見られたし、まったく無理、と感じたわけではないが、逆に実際に使えるようになるまでの努力量を感じ

じてしまったとでもいうのだろうか。先生たちやホストファミリーはだいぶ気を遣ってゆっくりしゃべっていたから、英語を使って日常を楽しめるようになるにはそれこそ2年くらいは英語圏で生活しなければいけないと感じたが、正直そんなに自分の時間を投資したいと思えなかった。次に、とにかく自分から新しいことに突っ込んでみる（新しい人との出会いや新しい出来事に関して）は、いったん突っ込んでしまえば意外とどうにかなるということだ。先ほども述べたが、私はわりと保守的な人間なので現状を変えることにストレスを感じるのだが、ちゃんとどこかに落ち着ける場所を確保しているなら新しいことにどんどん挑戦するべきだと思った（良くも悪くも、一橋のみんなと一緒にいたことで落ち着いたので、その分他のところでは少し冒険できた）。最後は、この短期留学を通して一橋のみんなと仲良くなれたのがすごいうれしかった。正直アメリカに行く前まではお互い様子見していたのだろうと思うが、実際に行ってから様々なアクティビティと一緒に過ごしてみんなのことを少しはわかるようになったし、私自身も自分を出せるようになった。みんなそれぞれ面白い部分を持っていて楽しい人たちだった。大学は様々な人と会える場所だ、とは言うけれど、実際にはそこまで知人の輪を広げる機会は多くないと思うから今回の留学でみんなと仲良くなれたのは大きな収穫だった。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

堀江 隆希

この夏休み、1か月カリフォルニアにある UC Davis のサマープログラムに参加してきました。春に通ったモナシュ大学よりも勉強が大変だとは聞いていたのですが、全くその通りでした。そうはいっても宿題がそんな大変であったわけではなく、大変なのはむしろ授業でした。Elective class はほとんどのクラスメイトが日本人であり、Intercultural Research Project とともにモナシュを思い出させるような授業でしたが、Pronunciation & Listening と US Society & Culture の授業では相当苦労しました。日本人の英語教師4人に外国人が6人もいたクラスであったからです。すでにアメリカで1年以上勉強しているにも関わらずこのプログラムに参加している生徒もおり、彼らの英語はとても流暢であるのに対し、こちらは言いたいこともうまく言えず苦労のし通しでした。また語学力の面のみでなく、授業への参加という面でも、他国の留学生の態度には目を見張るものがありました。しかし、彼らと1か月間同じ環境で授業を受けることで、自分に足りないものが見えてきたと思います。

モナシュ研修に引き続き、ホームステイ先にも恵まれました。前回はホストファミリーとあまり会話ができなかったのが、今回こそは、と意気込んでいたところ、とてもアクティブで親切なホストファミリーの家にステイすることができました。キャンプに二泊三日で行ったり、ショッピングに連れて行ってもらったりと、本当によくしてもらいました。話好きだったということもあってたくさんさんの会話の機会も持つことができました。英語の勉強やアメリカの文化に触れるのみでなく、日系アメリカ人ということから太平洋戦争時のお話を伺うことなどもでき、語学力のみでなく様々な知識と刺激を得ることができました。同時に、同じステイ先だった友人にも感謝したいです。はじめは日本人がいることに落胆していたのですが、とても楽しいホームステイ生活を送ることができました。

二回目の語学研修ということで、緊張しすぎることもなく、物事をゆったりと見渡すことができたような気がします。ここで得た経験がただの思い出になってしまうのではなく、未来への糧となるよう、これからも英語の学習等を進めていきたいです。

曲尾 理

僕はパキスタン人のホストマザーsummaira と同じ研修に参加していたルームメイト一人と猫のTutu、Nona がいる家庭にホームステイしました。ホストマザーは近くのワイン会社に研究者として勤めており、自分用の畑を持っていてそこでフルーツや野菜を栽培していたので、出てくる料理は野菜が多くヘルシーな料理ができてよかったです。またホームステイ先では自由に映画を見させてもらえたので毎晩それを見ていました。今回の研修ではホームステイ先に不満がある人があまり出ず、皆 Davis に泊まれたのでかなり恵まれていたと思います。

授業では、自分は O class で、選択授業は academic skill を取りました。O class ではアメリカの文化について学ぶ授業二つと発音の授業を受けました。クラスはほとんど日本人でしたが、発音の授業では学校の先生もいたりしていつもとは違う環境で英語を学ぶことができたと思います。一方選択の Academic の授業では3分の2がフルブライトの奨学生で、授業内容も英文レポートの提出や、プレゼンなどハードでしたが、最後のプレゼン発表の際に、フルブライトの人たちによるプレゼンを聞けて、bodylanguage やわかりやすく伝えようとする技術など、今後の発表などにおいて非常に参考になるものを得られたと思います。

週末はほとんど外に出かけて、ヨセミテやサンフランシスコ、ロサンゼルスなど大体の観光地に行けたのでかなり満足でした。

一か月行ってみて listening は少し上がったと思いますが、現地の人と話す際においては何度も言わなければならなかったりしたなど、発音の難しさに気づかされました。しかし一か月アメリカの大学へ行き、ホームステイをした経験は今でしかできないことなので非常によかったと思います。

松本熙

2014年8月7日から9月7日までカリフォルニア大学デービス校へ語学研修として行ってきたので、今回はそこでの授業についてまとめていきたいと思う。

短期の語学研修であるので、授業の内容は英語についてとアメリカの文化についてが主たるものであった。研修の初日にクラス分けのテスト（100問のリスニングとリーディングのテスト）が行われ、私は N クラス（A~P クラスまでである）になった。すべてのクラスで共通してアメリカの文化と異文化研究とリスニング、発音についての授業を受けて、さらに M クラス以上の人は選択で日常生活において使用するイディオムかビジネスについてあるいはライティングについての授業を履修した。O クラス以下の人はイディオムについての授業を前述の3つに加えて受けた。研修に参加している人はやはり日本人が大多数であったが、私たちのクラスは半数が日本以外を母国とする人で、パキスタン、ベトナム、マダガスカル、台湾と出身はさまざまであった。そのため彼、彼女たちとの会話では困った時に日本語を使う甘えも許されず、英語のみを使用することを強いられた。私にとってそれは辛いことではあったが、他のクラスより日本人でない人が多かったのは幸運であったと思う。

どの授業も有意義ではあったが、やはり1ヶ月では英語がみるみる上達するほどの成果は得られなかった。これは私の努力不足であるかもしれないが、だからといって、この研修の授業が無駄であったとは全く思っていない。なぜなら第一に、この1ヶ月で英語を自ら話すことにたいするめらいが薄れたからである。どの授業でも生徒が発言をする機会や、生徒同士で発音の練習をすることや意見を交換する機会を多く設けていただいた。日本で英語を勉強しているとどうしても英語を話す機会というのは少なくなりがちであるので、これはとてもためになった。英語が流暢に話せるようになったわけではないが、それでも意外と自分の言おうとしていることは伝わったこともあり英語を話す恐怖は消えてきたと感ずることができた。さらにクラス内での発言の機会に加えて、異文化研究の授業では見知らぬ人にインタビューをする経験もした。日本語ですら知らない人にインタビューをすることなんて滅多にしない自分にとっては非常に苦痛であったが、意外と相手に質問を理解してもらえ、相手の回答も完璧ではないが汲み取ることができたので英語に対する自信もついた。第二に、クラスメイトとの交流を深め、授業を楽しめたからである。生徒同士でペアを組んで練習をする機会が多かったので、自然とクラスメイト全員と会話することができた。また、ゲームを授業内に行うことも多く、皆と交流を深めることができたし、自身もとても楽しむことができた。研修序盤はクラス内での会話も少なく、正直そこまで仲良くなれないのかもしれないと考えていたが、最終的にはクラスメイトと一緒にダウンタウンで食事に行ったりするほどになった。1ヶ月ではあったがとても大切な思い出となった。

今回の研修の授業では英語を話すことに対する自信とかけがえのない思い出を主に得ることができた。英語力も多少は上達したと願いたい、見違えるほどの成果は得られなかった。授業のある課題で日記のようなものを課され、そこで英語が上達しているのかわからない、といった内容のことを書いたことがある。すると先生がコメントとして母国へ帰っても英語の勉強をすることが重要だということを書いてくれた。この言葉はとても印象的であった。1ヶ月の間に英語を上達させ

る必要があるわけではない、日本でも勉強を続けて最終的に英語が上手くなれば良いのだ、この研修が英語をさらに勉強する契機となれば良いのだ、この言葉のおかげでそう思うことができた。この言葉、そして1ヶ月の経験を励みにさらに英語の勉強に努めたい。

三田あき穂

今回の研修を通して、自分の中で様々なことが変化したが、その中でも特に英語の力に関する変化と、コミュニケーションをとることに対する考え方の変化を述べる。

まず、英語の力に関しては、毎日英語を聞いていたおかげで、リスニングの力が上がった。最初は4割程度しか聞き取れなかった早口の先生の英語も、次第にほとんど理解できるようになった。また、英語のネイティブスピーカーではない留学生と話したことで、かなり癖のある英語でも聞き取れるようになった。さらに、今までは英語を話すことに対して自信がなく積極的に話すことができなかったが、あまり構えずに自然と話せるようになった。帰国してから人前で英語を話すようにいきなり振られたことが二度あったが、事前に準備していなくてもかなりの程度自分の言いたいことを言えるようになっていた。もちろんまだまだ改善の余地はあるが、英語を話すことを怖がっていた以前の状態と比べれば大きな進歩であった。

次に、コミュニケーションをとることに対する意識の変化について述べる。日本人が他者とコミュニケーションをとるときは、相手との関係を悪くしないように空気を読んだり、自分の意見を言うことを我慢したりすることが多い。しかし、アメリカ人のコミュニケーションの取り方は、まず互いの意見を言って、意見が食い違うところがあればすり合わせていくというものだった。アメリカでは、コミュニケーションをとる際に言葉を使う場面が多いように感じた。たとえば、日本では直接相手に聞かずに、空気を読むことで相手の気持ちを察することが多いが、アメリカでは気分はどうかとか、どう感じたかなどをよく聞かれた。これは、日本ではお互いが似た考え方を共有していることが多いが、アメリカでは一人一人が多種多様なバックグラウンドを持っているため、逐一言語化しないと誤解などが生じるからではないだろうか。このような違いがあるということはもちろん知ってはいたが、実際に体験してみると、その違いを理解しておくことの重要性がよくわかった。なぜ重要かという、このようなコミュニケーションのとり方の違いを認識していないと、互いに互いのことを誤解してしまう恐れがあるからだ。日本人は、自分の意見ばかり言って強引だと感じるかもしれないし、アメリカ人は、思っていることがあるのにどうしてはっきり意見を言わないのかと思うかもしれない。どちらが良い悪いというわけではないが、そのような誤解を防ぐために、「違いがある」ということは認識しておく必要があると思った。

Mayu Yada

Four weeks in Davis passed faster than I had imagined. Every moment there can be vividly remembered.

It was my first long stay abroad. In campus, I saw many Japanese students, and most of students in same classes are from Japan. So, there were less chances to speak English than I had expected. But I could make many Japanese friends.

Actually, classes were not so much fun. But, I tried to talk with teachers in break time and this was good for speaking and listening training and can not be experienced in Japan. They were really nice and taught me not only American culture or English pronunciation but also recommended shops and good places for sightseeing.

I visited many places during my stay, like Los Angeles, San Francisco, Yosemite, and so on. I went to San Francisco with Hitotsubashi students. It was not a tour. We planned how to get there and where to go from the beginning. It was exciting.

The best thing I found through the stay is that communicating with others is fun. Especially, with the language which is not the mother language, the sense of accomplishment is bigger. Speaking English is exciting and teaches me a lot of things.

If possible, I want to go there again.

The days I spent in Davis were so wonderful. I've ever had such a great days. I'll tell about these special days in Davis through this assignment.

Firstly I want to tell about homestay life in Davis. I've never done homestay, so I wondered whether I could do well in my host family before I leave Japan. But my host family was so kind so my anxiety disappeared. But unfortunately, my host mother brought to hospital because she had a cancer in her blain. Fortunately her cancer was not so heavy, so she could return to the home in three days. But I have to look for another host family. To my surprise, it doesn't take long time to find the next host family, My neighbor introduced me another host family. So I moved to my new host family. Through this situation, I learned that relationship in the community was very important. My neighbors did their best looking for the family which could accept me. I appreciate Cathy and Bill who introduced me another host family and Gail and Douglas who accepted me. My homestay life was wonderful. The dinner was so good and my host family always concerned about me, so my homestay life was very comfortable.

Secondly I'll tell about the class. My class was N section and there were many foreign students, Taiwanese, Vietnamese, Chinese, Pakistani, and Madagascan. By talking with them I could learn not only the U.S society but also Taiwanese society, Chinese society and so on. In the lecture, the professor focused on discussion, so we discussed a lot with my classmates and class assistants and speaking English a lot in the discussion helped me improve my speaking skill.

Thirdly I'll tell about field trip. I went to Sacrament, San Francisco, Lake Tahoe, L.A, Yosemite, and Oakland. Especially trip for San Francisco was killer for me. The townscape was similar to the townscape in "Kiki's delivery service". It was so beautiful and there are many famous building like Golden Gate Bridge. Also, I could go to MLB baseball game. Seeing MLB game was my dream, so I was happy.

I'll never forget the days in Davis and I'll keep trying to improve my English skills.

Ippei Harada

My Home Stay

It was the first time for me to do home stay. Before going to Davis, I felt nervous because I did not know American culture. In my home, including me, there were a host mother and five exchange students. All of exchange students were Japanese. At first, I doubted I could speak English in my house. However, we spoke English as possible as we could. In addition, my host mother, Peggy, is used to living with exchange students, so she did anything she could to make us fun. For example, she took a walk with us after dinner, and played a board game every day. On one exchange student's birthday, we went to a Japanese restaurant to celebrate his birthday. It was an unforgettable day in my life. I was fortunate to do home stay in her house. After returning to Japan, I keep touch with my host mother by email. Someday, I will go to Davis to see her.

I learn a lot of things by doing home stay. As many people think so, I experienced a culture shock. It was that my housemate was told not to take a shower for a long time because of a drought. Actually, during my staying, it did not rain at all. Especially those who have never done home stay should do home stay.

Koki Iwamoto

Through this program, I've learned a lot of things. So let me tell you by dividing three parts: Classes, homestay and travel.

I took Intercultural Research Project, U.S. Society and Culture, Pronunciation and Listening and Academic Preparation Skills. For example, in Intercultural Research Project class, I learned about American culture and compared American culture with Japanese culture. I searched about California fashion. I interviewed 10 people in Davis or Los Angeles, and learned about the differences between Northern California fashion and Southern California fashion. It was a nice opportunity to talk with native people in the United States and I cannot experience it in Japan. I also watched and discussed with my classmates about a lot of short video clips of American culture: American music, American show, American junk food and so on. It was very fun, though it was a little old. In Academic class, I had present about any Academic topic. I

didn't have much time to prepare and do well. I also impressed about many good presentations which were made by Fulbright students in the world. They were very smart and I can refer to how to speak or how to make slides. All the four classes were new for me. I got familiar with some foreign people and I will have contact with them. I introduced them some Japanese things by using pictures. I also learned about Columbia or Madagascar. Anyway, I found that my vocabulary ability and English pronunciation is poor, so this semester I have to study by focusing on them and would like to continue studying to get good score in TOEFL.

My host mother was kind and cheerful. Thanks to her, I was able to experience American culture. She took me Six Flags, Drive-in movie, a nice coffee house and so on. Many of them were unique. She likes going for a walk so I went for a walk with her and housemates many times. She showed us a lot. For example, we ate figs. The sky was always full of star. I always played game called Rummikub with her and other housemates. She showed us how to play it and it was great. She is also a good cook. I was looking forward to dinner every day. Her meal was delicious. She made me smoothie. I loved it. I learned other things in addition to English in the house. I live with my family and my mother always helps me a lot. I washed my clothes, washed dishes and made sandwiches by myself. So I have never done such a thing. So it was a nice opportunity for me to experience how to live alone.

It is true that there were five Japanese people in my house including me and I sometimes spoke Japanese with them, but thanks to my host mother Peggy, I tried to speak English. She took me a lot of place. In addition, one of the Japanese students gave me a good advice for my study in Japan. Thanks to it, my motivation for my college life in Japan became much higher and I will study hard.

Sometimes I had some troubles. For example, I cannot take a shower for a long time because it doesn't rain at all in California in summer. My host mother scolded me when I took a shower for 20 minutes.

Now I keep contact with her. When I visit California, I will meet her again.

I enjoyed trips on weekend. I always traveled. I went to San Francisco, L.A., Yosemite National Park and so on. I watched a lot of beautiful views. I liked all of the places, but I liked Yosemite National Park the best. I became tired because I walked for a long time, but I took a lot of beautiful pictures. I saw many nice views. I also ate many kinds of delicious food which I can't eat or drink in Japan. I ate a clam chowder in San Francisco, a big sandwich on my way to Los Angeles and California roll in Los Angeles, and drank Almond Blizzard in Davis. They are rare in Japan. So they are worth eating or drinking. I watched MLB baseball game. They played very hard and powerfully. I was lucky to watch Home-run of Adam Dam, who is a famous baseball player and belongs to Oakland Athletics now.

Anyway, I had a good time. I got an unforgettable memory in Davis. I will never forget it because I took note many important things by keeping diary every day.

Katsuhiro Tamura

In this summer vacation, I went to UC Davis in order to study English. This one month trip taught me not only English but also a lot of other things. Before I went to California, I worried and nervous about staying for a month in California. This is because this trip was the first time that I had been to abroad for study English and stayed such a long time. Of cause my poor English skill was one of the worries. Preparing for this trip, my worry was increasing. However after I went back to Japan, I found my worry despaired and this trip is the priceless thing. I experienced so many things, so it is difficult to write down all of them. So in this writing, I classify my experiences into four sections, Study in UCD, After school, Host family, and Weekend trip. I think this classification makes you understand my experiences easier.

At first, I talk about Study in UCD. In UCD, we belonged CCP, Communication and Culture Program. Before class starts, we had a placement test. This test was difficult for me. This is because this test took place one day after we arrive Davis. So I was suffering from jet lag. After taking a placement, I became a member of K-class. Almost all of my class mates are Japanese. Only two students are not Japanese. I was a little disappointed at this. One of them is Taiwanese and the other is Chinese. This class had four subjects, Listening & Pronunciation, Expression & Idioms, Intercultural Research Project, and US Society & Culture. In L&P, we learned syllables and how to stress sentences, and every Friday, we had a karaoke time. My instructor chose popular song and, we listened and sang the song. This was very fun to me. And the end of this subject, we made an address. We chose a speech of some famous people, and spoke them in front of

class. I chose Presidential inaugural address of John F Kennedy. In E&I, we learned slangs that American, especially people living in California used. Every week, we made 10 sentences which contained slangs we learned that week and we had a skit. This subject was the best one for me because I had less chance to learn slang when I studied English in Japan. In IRP, we chose subject that we want to know, interviewed people living Davis and had a presentation. I chose owning guns in U.S. as my presentation subject. This presentation was hella interesting to me because much more American than I expected were certain that owning guns was one of the human rights and familiar with guns. In USS&C, we learned American culture like what kind of food American like.

Secondly, I want to talk about what I did after school. My class often finished at about three o'clock. After finishing class, friends of mine and I played bowling or billiards, went to see a movie and hanged out in Davis downtown. I was happy seeing a movie because it hadn't released and also fun. When we hanged out in downtown, we found a sushi bar. We had a dinner at that restaurant. The sushi in U.S. was very different from that in Japan. They were bigger and longer, and seasoned by mayo and teriyaki sauce. At first, I was surprised but finally I was crazy about them.

Thirdly, I talk about my host family. My host family was composed of four people and one dog. Host mother, Grace Kau, host son, Brian Liao, roommate1, Alex, roommate2, Takeshi, and bulldog, Brutus. My host family and Alex were Chinese Americans. Takeshi was Japanese. They were very kind and sociable people. At first, Brian, who tattooed on his arms and his chest, looked like a bad guy, so I was scare of him, but soon I realized that he was very a kind and gentle man. At once I made friends with him, and he took me good hamburger shop, bar and club in Davis downtown. He had a great passion for exercise in gym. He had a training room. He told me how to train the body, and let me use his training room. Grace was also kind, and on the first weekend she took me Sacramento where was the capital of California, and told me a lot of things like a life in Taiwan and America. Alex came from San Francisco and he loved shooting. He showed me real guns and told me a gun culture in U.S. Takeshi came from Osaka, and stayed Davis four months longer than me. He also studied English in UC Davis. Brutus was a big bulldog and he was calm. He loved Brian and Alex, and when they went out home, he was very sad and was crying. He was like a big baby. I was so happy to stay at such a nice family as them.

Finally, I want talk about my weekend trip. The first weekend, Grace took me Sacramento. We went to the statehouse of California. The statehouse looked like White House. Friday on the next week, my friends and I went to Oakland to watch a game of National Football League. We cheered Raiders, whose home was Oakland. This was the first time I had watched the American football, and I didn't know much about the rule. But the game was so interesting, and I was very excited. The player run so fast and the moving of the game was quick. On this Saturday, I went to San Francisco, It was cooler there than Davis. In downtown I went shopping, and in bay area, I enjoyed eating seafood. Clam chowder was one of the famous seafood there. It was very tasty. San Francisco was very so place that I had been there twice in this summer trip. On this Sun day, I went to Lake Tahoe. The water was clear and my friends and I swam, and near that lake, we had BBQ. On the third week, I went LA. Firstly, I went to Hollywood. There were many people who dressed up as Characters in movies such as spider man ,captain jack sparrow etc. and on the road of Walk of fame, there were a lot of stars which engraved movie stars' names. It impress me that people offered flowers on the star of Robin Williams, who died during this trip. Secondly I went to Disneyland. Finally, I went to Santa Barbara. That was very beautiful place. Houses there were in European style. The roof was red and the wall was White. I felt as if I had been in Spain.

I experience a lot of thing, and all of them were cherished memories. I became more motivated, and after coming back Japan, I study English much harder.

In retrospect, I went to some places with my host father. He loves trips very much. Because of him, I could find many different points between Japan and America.

Firstly, I learned that the highway in California is 'FREEWAY'. I was really surprised by that, because Japanese highway cost us much money and America is the country with lower burden and lower welfare than Japan. But gradually I understood why the high way in California is free. Thought about automobiles are different between Japan and America. People who live in Japan, except very rural areas, can commute and go shopping without Automobiles. So Japanese government couldn't construct highways using only tax. On the contrary, it is difficult for most people who live in California to do that things without Automobiles. Many people absolutely need automobiles and the highway for their life. So Most American accept to make an investment in building the highway from tax. I'm interested in this difference.

Also, I felt that the number of special products, especially foods, is so small in sightseeing places. In every Japanese sightseeing place, there are many special foods. Sometimes I don't understand why such a product is sold as the principal products of this district and I think I can eat it every ware. But I think it is very good business style because sometimes we tend to buy them. In my opinion, this commerce will play an important part to entertain tourists and earn foreign currency.

Finally, my host father took me and my friends to a baseball game and a football game. American sports are different from Japanese sports. I felt American sports are not only sports but also festivals. In stadiums, spectators can participate in the game and 'FESTIVAL'. They can choose the back music and sing and dance. Even people who don't have enough knowledge can enjoy an atmosphere. The baseball stadium is a date spot in America. I was surprised at Kiss Cam. Couples who are captured by this camera must kiss in public. Most couples did it joyfully and many spectators enjoyed this event. I felt American spots are easy for everyone.

In this way, I can felt a lot of culture shock through field trips. This experience makes me consider about my country.

English III

Plentiful Experiences at UC Davis

At UC Davis, I underwent meaningful experiences in three aspects as following. First one is an aspect to improve my English skill, and second one is to find out American feelings about Japan. Then, third one is to talk with foreign students whose native language is not English.

First, it goes without saying that four weeks in the U.S. contributed to my English skill. Not only classes but also conversation with my host family were effective trainings for me. Thanks to them, I can watch longer and more difficult TED talks than before and understand what speakers wants to say accurately. This is an evidence showing outcomes of four weeks. In addition, I felt my English skill did not actually live up to my expectation at all there. There were many cases that I could not say what I wanted to tell because of bad pronunciation, lack of vocabulary and so on. Those experiences become good incentive to make more efforts to brush up my English in Japan.

Second, I could objectively know how American people felt about Japan in Davis. For example, my host father told me that he thought Japanese people were very industrious by watching news about recovery from the Great East Earthquake in 2011. Additionally, I had an opportunity to talk with UC Davis students in class. This system was called “Conversation Partner.” I was surprised that American students had known about Japanese comics like *ONE PIECE* and Japanese restaurants like *Yoshinoya* in detail. They said there were a lot of sophisticated points in Japan, especially about its culture. I thought most of American had positive feelings about Japan, which was a result from continuous efforts done by our ancestors. These experiences strengthened my idea that what I should do abroad is to behave to conserve the value like above.

Third, I communicated with foreign students whose native language was not English. Russian female student was my classmate and I did a presentation with her. At first time to talk with her, I realized her English pronunciation was like that of Russian language. That was unique and difficult to understand for Japanese. Due to different pronunciation, it was trial and error to prepare for presentation together. However, she was very cheerful and preparation with her was fun thanks for her personality. In addition, I could overcome problems from pronunciation and communicate with her correctly by facial expressions, gestures, loud voice and so on. It was most important to speak frankly and avoid unclear “yes” when I talked with her.

I think that this experience will help me to show my opinion foreign people like Russian in university or company in the future.

In conclusion, my life in Davis had above three meaningful outcomes and a plentiful experience as a whole. I really appreciate care by all people to cooperate with this plan; my parents, host family, teachers and CIEE officers. I am sure that my experience will enrich my life.

反省会

研修からの帰国後 9 月 26 日に反省会を開催した。今年度は、出発前に、帰国後の反省会では「ホームステイ」「授業」「フィールド・トリップ」についてグループ毎に英語でプレゼンテーションをすることという課題を与えた。当日、各グループがパワーポイントで写真入りのシート（英文）を準備し、見事なプレゼンテーションを行った。課題を日本語でのプレゼンテーションと勘違いし、日本語でシートを作成してきた学生もいたが、英語でと指示すると、その場で英語に切り替え、しどろもどろになることなく発表を行うことができた。どの学生も、出発前の自信のない話ぶりとは異なり、堂々として、一瞬言葉に詰まる場合も、すぐに、代替の言葉で表現していた。今回は、出発前に何度か英語でグループディスカッションを行い、その際、学生の話ぶりを観察し、渡航前の会話力を知ることができたため、帰国後の英語によるプレゼンテーションは研修前・研修後を比較するよい機会となった。プレゼンテーションにおいて「話す」という行為における大きな成長を確認でき、感動的でした。CIEE の担当者も、研修の成果を目のあたりにし、驚いていた。また、学生たち自身も、互いのプレゼンテーションを見て、スピーキング力の向上を実感できたようであり、嬉しそうな表情であったことが印象的である。帰国後、研修のレポート提出以外に、このようなプレゼンテーションを課したことは、学生にとって負担が大きすぎたのではないかという懸念もあったが、学生には好評で、来年もぜひこのプレゼンテーションはやるべきという意見をもらった。リスニングやリーディングに比べて、スピーキングの能力の測定は難しいものであるが、今回、出発前のグループ・ディスカッションとは若干形態は異なってもプレゼンテーションは、研修の成果を測るのに役立ったと思われる。来年は形を揃えるという意味でも研修前に日本の文化や一橋大学の紹介といったテーマを与えてプレゼンテーションを一度やらせてみたいと思う。また、来年度の参加希望者向けオリエンテーションにおいては、今年度の参加者にこのプレゼンテーションをもう一度行ってもらうようにしたいと考えている。